

ティーネのいいね！ドイツ

沼田市国際交流員が教えるドイツ

春がやって来るということは、Ostern（英語ではイースター）の季節が始まるということです。日本にも浸透しつつあるイースターですが、ドイツではクリスマスと並んで大切な行事です。十字架にかけられて亡くなったイエス・キリストが三日後に甦ったことを記念する、キリストの復活祭のことで、キリスト教において最も重要な祭です。

ドイツのイースター

春分後の最初の満月に続く第一日曜日はイースターの本番なので、決まった日付はありません。

今年のイースターは金曜日の4月19日から次の月曜日まで4日間続きます。イースターの風習は国によって微妙に異なりますが、ほとんどのドイツの家庭ではOsterhase（イースターバニー）とOstereier（イースターエッグ）がイースターのお祝いになくてはならない存在です。子どもたちはイースターの時期になると家庭や幼稚園でイースターエッグを作り、庭木をデコレーションしたり、



部屋に飾ったりします。それに、イースターの日曜日の朝に、小さい子供たちは、ソファのクッションを動かし、庭木や植え込みの中を必死に覗き込みます。「イースターのウサギ」が夜中に隠していった色とりどりの卵やお菓子など、家中を探し回ります。

なぜイースターの象徴がウサギや卵なのでしょう？



ウサギは繁殖力が強く、ヨーロッパでは昔から「生命」や「繁栄」の象徴とされてきました。そこから17世紀ごろにウサギが卵を運んでくるという話ができるようです。一方卵は生命の誕生と再生のシンボルと考えられ、イエス・キリストが復活した日の象徴になりました。また昔イースター直前で断食をしている人が多かったです。断食の期間、農家は卵を食べることができなかったため、その間にたまった卵をゆで卵にしてイースターに食べました。キリスト教の影響で今でも断食する家族もいます。イースター前の時期になると、スーパーにはカラフルに色付けされたゆで卵、卵型やウサギ型のチョコレートが並びます。また大きなイースター菓子コーナーも設置され、クリスマスと同じくらいにぎわいます。

Frohe Ostern!
(ハッピー・イースター!)



作者：クリスティーネ・バウアー（ティーネ）
問い合わせ：c.bauer@city.numata.gunma.jp